

## 公明党の自立路線時代(11)

平野 貞夫  
元参議院議員

第49回衆院総選挙の結果を一言でいえば、総選挙直前に自民党総裁選を強行し、「自民党は変わった」と国民を騙し、有権者が岸田自公政権のウソを見抜けなかったことだ。

議席を約4倍の41人に増やした「日本維新の会」は、新しいファシズム政治を展開していくだろう。公明党は比例票を710万台と回復させ、自民党の国民イジメ政治に関りを深くしていくだろう。ロウソクの火が最後に燃え盛る炎になることを願う。

### 池田大作家名譽会長の怒り

1988(昭和63)年7月19日に召集された「消費税国会」は、10月下旬ようやく税制改革関連法案の衆院審議日程が、自民・公明・民社3党で合意できた。

ホツとしていると11月5日、矢野絢也公明党委員長が記者会見で「江副リクルート前会長ら関係者の証人喚問の日時を決めない限り、予定した公聴会以後の審議に協力できない」と発言。公明党の方針変更で大騒ぎとなる。

早速、公明党窓口の権藤恒夫衆院議員に実情を聴いた。真相は矢野委員長が、池田大作家名譽会長に「公明党にはリクルートに関わった議員はいない」と報告していたのに、池田克也衆院議員の名前が出たので、池田名譽会長が怒ったとのこと。その反動で強い姿勢をとっているだけだとの話なので、「基本が変わるわけではないから安心しろ」との返事。

聴会以降の日程協議に「応じない」ことを確認する。8日には中央公聴会が開かれ、9日には地方公聴会を終えた。

そこから先が問題で、野党側の要求するリクルート江副浩正氏や文部省・労働省の前次官の証人喚問。宮沢喜一蔵相秘書関係の参考人招致について、自民党は応じず、協議は決裂した。

### 税制改革調査特別委員会での異常採決

11月10日午前9時、小沢一郎官房副長官に呼び出されて、院内閣議室で極秘に会う。税制等調査委員会での6法案の採決についての相談だ。主なやりとりは次の通り。

○小沢副長官 今朝になって矢野公明党委員長から電話で、「税制調査委員会は自民党だけの質疑打ち切りで止め、修正問題を幹事長書記長会談でやるようにしてほしい」というんだ。しかも衆院本会議の議了は18日以降という話が出て困っている。

○平野 自民党単独採決なら、予定通り今日採決すべきです。非公式交渉で公明・民社とは修正の話がついているので、甘い姿勢を見せるとずるずると引つ張られる。政府自民党がこれまでの話を白紙に戻せば、29

日からの公明党大会が開けなくなる。決断すべきです。審議時間も歴代3位の98時間、国内問題では1位だ。昨夜、権藤さんとも徹底的に話した。

○小沢 わかった。権藤さんとどんな話をしたのか。

○平野 リクルート問題の検察側の情報では「本腰」ということを伝えました。来年、中曽根(康弘)前首相あたりに行くことになれば、1〜2年後に連立政権が政党再編にならんと限らん。そうなれば公明党から閣僚が出る可能性もある。この国会の取り組みは、数年先を睨んで、今、竹下(登)政権に協力しておくべきだ。昭和60(1985)年の暮れ、中曽根内閣時代に、青山墓地近くの小料理屋で、金丸(信)・竹下・小沢・権藤で連立構想を協議したことが生かされるかもしれない。これを大久保(直彦)書記長に理解させるべきだ、という話だった。

○小沢 僕も直感的にそんな気がする。ところで、税制関連6法案の採決に当たって留意しておくべきことは何か。

○平野 修正案の数が多いので、10回採決することになる。これを、野党が出席して物理的抵抗で強行採決となると、速記録も取れず合法性が疑われるので、事務的にフォローできない。混乱すれば質疑打ち切りで

止めて、話し合いをすべきです。

○小沢 野党は欠席で、自民党だけで採決することになっていたので混乱はない。

同日午前11時45分、国会内の自民党総裁室に竹下首相・安倍晋太郎幹事長・金丸税制改革調査特別委員長・渡部恒三国対委員長・小沢内閣官房副長官が集まり、今後の進め方について協議した。小沢官房副長官から状況説明があり、出席者がそれぞれに発言し、結論は「手は尽くした。安倍幹事長にすべてを任せる」ことになる。

午後3時、政府自民党は8者協議（小淵恵三官房長官・宮沢蔵相・安倍幹事長・渡辺美智雄政調会長・伊東正義総務会長・渡部国対委員長・土屋義彦参議院会長・小沢官房副長官）を開き、最終対応を安倍幹事長に一任した。

午後4時頃、大久保公明党書記長や山口鶴男社会党書記長サイドより、「安倍自民党幹事長から税制改革6法案の採決をさせていただく」と電話があった話が流れる。強行採決かと院内緊張。

午後4時半、公明党は代議士会を開き、矢野委員長が「江副リクルート前会長ら6人の証人喚問とリクルートコスモスの株売買に関する全資料の国会提出がな

た。公明党の国会運営での自立と言える。

### 江副証人喚問と未公開株譲渡先資料要求

衆院税制改革調査特別委員会で異常採決が行われた翌日、11月11日の朝、自民党は役員会で事態の打開について協議。野党が強く要求するリクルート関係者の証人喚問、そのための議院証言法の改正を行う。さらに税制改革関連法案の追加修正について、野党側と話し合うことを決めた。

政府自民党は各野党と非公式な交渉を精力的に行った。社会党と共産党は採決差し戻しを要求。自民は公明・民社の3党で協議を行うことを決意。

協議項目を①税制改革関連法の再修正。②江副証人喚問を実施するための議院証言法の改正。③リクルートコスモス未公開株譲渡先リストの公表、の3項目とした。

③は公明党の強い要求で、権藤議員によると矢野委員長が「白」と証明したいがためだったとのこと。これらの準備は①を衆院法制局、②と③を衆院事務局委員部で担当した。

11月14日の議員運営委員会理事懇談会で、社会党は税制特別委員会の採決白紙撤回を強固に主張した

ければ話し合いには応じない」と発言する。新しい困難な問題の提起である。

午後5時過ぎ、金丸特別委員長が第一委員室に委員会再開のため入室すると、ポイコットすることで非公式に話がついていた野党議員が入室している。物理的抵抗かを確認すると、「出席ではない。抗議と監視だ」として着席せず委員室の後部や横に立ったまま。自民党単独強行採決に、野党が物理的な抵抗ではなく監視状況で採決という「異常採決」だ。

金丸委員長は休憩の委員会を午後5時14分再開。自民党の宮下創平委員の質疑を終えたところで、海部俊樹自民党理事を金丸委員長が委員長代理に指名して、委員室を退出した。廊下に出た金丸委員長は、「あと若いもんに任せる。年寄りの出る場面じゃないよ。恥をかきに行ったみたいなものだ。こういう国会は嫌いだね」と記者団にぼやく。

税制改革調査特別委員会では、海部委員長代理が、質疑終了の宣告を行い、6法案中4法案について修正を行い、合計10回にわたる起立採決を行った。野党側は立ったまま大声で抗議したが、発言を妨害したり物理的抵抗はしなかった。これまでの「自社55年体制」で社会党中心の国会対策では、こんな場面はなかつ

た。自民党は社会党との折衝を止め、公式に公明・民社との協議を明らかにする。午後7時過ぎ、小沢官房副長官から電話。「明日、リクルート調査特別委員会を設置し、証人喚問や株譲渡先の資料要求を、現在、公明・民社と協議中だ。万全の準備をよろしく」と。

15日午前9時、小沢官房副長官から電話。「安倍幹事長が、野党がらみの問題も取り上げるので、『リクルート等』の名称を指示、公明が了承しない。知恵を出せ」とのこと。「名称に入れずに、設置目的に入れる」ことでの進言で決着。株譲渡先の資料要求は、リクルート調査委員会を設置して委員会の議決で特別委員長から要求させる段取りとなる。

午後6時過ぎからの議運理事会で、社会・共産両党が国会審議に参加しないと宣言して退室。

午後7時40分から衆院本会議が、自民・公明・民社3党の出席で開会され、委員50人よりなる「リクルート調査特別委員会」が設置された。

自民・公明・民社3党は、直ちに特別委員を議長に届け出た。社会・共産は特別委員の届け出はできないと、前代未聞の混乱となる。